

## ANL Secondary Publication

鼻副鼻腔内反性乳頭腫の術後再発に対する血中 SCC 抗原の  
長期経過の検討

Long-term changes in serum squamous cell carcinoma antigen levels after surgery in patients with sinonasal inverted papilloma

北村 嘉章, 神村盛一郎, 藤井 達也, 金村 亮, 福田 潤弥, 近藤 英司, 東 貴弘,  
佐藤 豪, 武田 憲昭

Yoshiaki Kitamura, Seiichiro Kamimura, Tatsuya Fujii, Ryo Kanamura, Junya Fukuda, Eiji Kondo, Takahiro Azuma,  
Go Sato, Noriaki Takeda

Department of Otolaryngology, Institute of Biomedical Sciences, Tokushima University Graduate School

Auris Nasus Larynx 2022; 49(4): 697-702.

DOI: <https://doi.org/10.1016/j.anl.2021.12.004>

DOI: <https://doi.org/10.1016/j.anl.2023.11.005>(corrigendum)

**目的:** 鼻副鼻腔内反性乳頭腫は鼻副鼻腔に発生する最も頻度の高い良性腫瘍の一つであるが、再発率が高く、悪性腫瘍の合併もあることから、術前に正しく診断し完全摘出することが重要である。特に再手術例では、術後の癒痕や骨増生に重要臓器が巻き込まれ、腫瘍の全摘出に困難を伴うことがあるため、早期に再発を診断し治療する必要がある。しかし、内視鏡検査や画像検査は、術後の癒痕形成により再発を早期に診断することが困難なことがある。鼻副鼻腔内反性乳頭腫の腫瘍マーカーとして血中 SCC 抗原が報告されており、術前診断と術後再発に対する有用性を当科の手術症例で検討した。

**対象と方法:** 対象は徳島大学病院耳鼻咽喉科・頭頸部外科で2011年～2020年に鼻副鼻腔内反性乳頭腫に対し手術治療を行い、術前後の血中 SCC 抗原を測定した25症例（男性19例、女性6例）である。年齢は39～86歳で平均年齢は66.2歳であり、新鮮例が13例、再発例が12例であった。術後観察期間は17～105カ月で、平均48.8カ月だった。

**結果:** 術前の血中 SCC 抗原は、新鮮例13例中12例の92.3%で上昇を認め、平均 5.6ng/mL であった。また再発例12例中11例の91.7%で上昇を認め、平均 5.1ng/mL だった。新鮮例と再発例ともに術後は血中 SCC 抗原の有意な低下を認めた（図1: Fig. 1）。

術後再発は5例で認め、それぞれ手術後15, 18, 19, 21, 27カ月での再発だった。再発例の血中 SCC 抗原の推移を図2（Fig. 2）に示す。術前高値であった血中 SCC 抗原は術後早期に低下したものの、正常化せず高値が持続し再発を来した。2例に再手術を行い、術後の血中 SCC 抗原は速やかに正常値まで低下し、再発を認めていない。一方、再発が確認されたものの、高齢のため再手術を希望しなかった3例は、その後の血中 SCC 抗原は引き続き高値のままで経過している。無再発20例の血中 SCC 抗原の推移を図3（Fig. 3）に示す。血中 SCC 抗原は全例が術後速やかに低下し、その後も一過性の上昇はあるものの最長8年に渡り正常化している。

次に術後3カ月での血中 SCC 抗原は、再発例が無再発例と比べて有意に高値だった（図4: Fig. 4）ことから、術後3カ月の血中 SCC 抗原による Receiver operating characteristic curve を作成して検討すると、カットオフ値 1.85ng/mL にて感度100%、特異度90%で再発が予測できることが示された（図5: Fig. 5）。

**結語:** 血中 SCC 抗原は鼻副鼻腔内反性乳頭腫の術前診断と術後再発の腫瘍マーカーとして有用であり、術後に正常化しない症例は再発のリスクが高いと考えられた。さらに術後3カ月で血中 SCC 抗原が 1.85ng/mL を超えている症例は、特に再発のリスクが高く積極的に生検を行うなど嚴重な経過観察が必要であると考えられた。

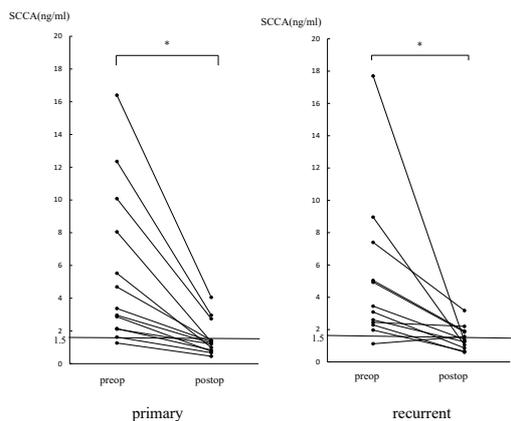


図1 (Fig. 1) 新鮮例13例と再発例12例の手術前後の血中 SCC 抗原の変化  
新鮮例, 再発例ともに術後に有意な低下を認めた.

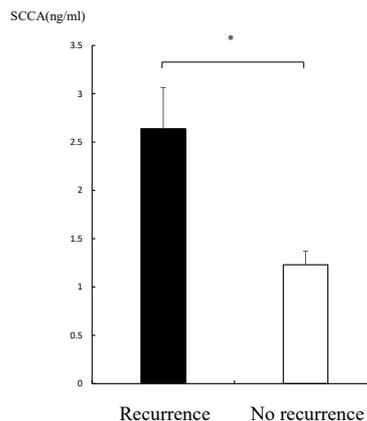


図4 (Fig. 4) 術後3カ月での再発例と無再発例の血中 SCC 抗原の比較  
再発例が無再発例と比べて有意に高値だった.

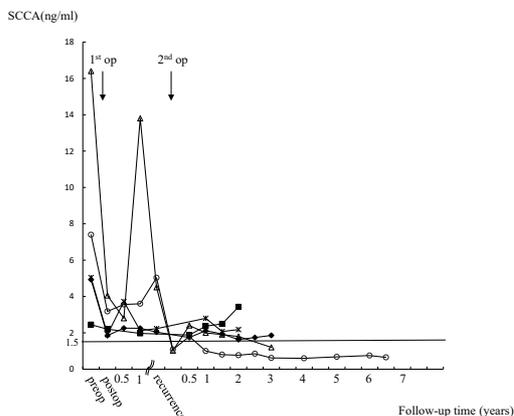


図2 (Fig. 2) 術後再発した5例の血中 SCC 抗原の推移  
術前高値であった血中 SCC 抗原は術後早期に低下したものの, 正常化せず高値が持続し再発を来した. 2例に再手術を行い血中 SCC 抗原は正常値まで低下し, 再発を認めていない.

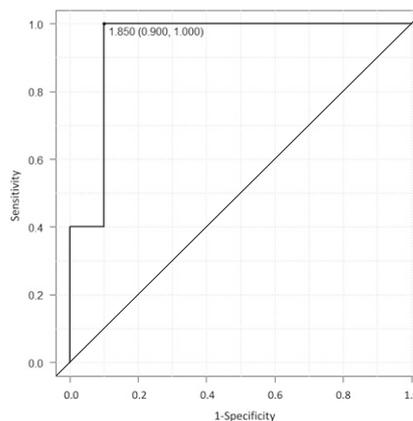


図5 (Fig. 5) 術後3カ月の血中 SCC 抗原による Receiver operating characteristic curve  
カットオフ値 1.85ng/mL とすると, 感度100%, 特異度90%で再発が予測できる.

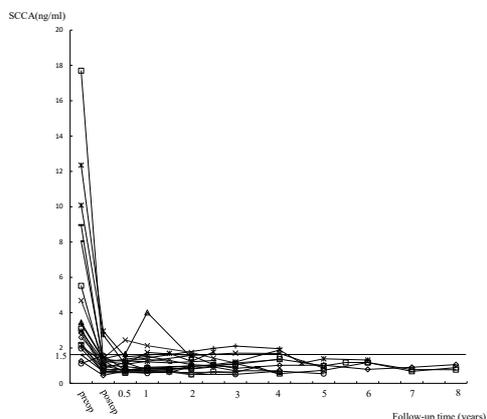


図3 (Fig. 3) 無再発20例の血中 SCC 抗原の推移  
全例が術後早期に低下し, その後も一過性の上昇はあるものの最長8年に渡り正常化している.